

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）	ET		13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純／堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事			

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法律
3. 教育課程の歴史(学習指導要領の変遷)
4. 教育課程の歴史(総合的な学習の時間の誕生)
5. 各学校種における教育課程(中・高)
6. 総合的な学習の時間の指導①
7. 総合的な学習の時間の指導②
8. 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
9. 教育課程の編成と評価
10. 学校種間の連携における教育課程の工夫
11. 地域社会の連携と総合的な学習の時間
12. 今日的な課題とカリキュラムマネジメント
13. 諸外国の教育課程(米・欧)、教育課程の模擬編成演習①
14. 諸外国の教育課程(中・韓)、教育課程の模擬編成演習②
15. 模擬編成した教育課程のプレゼンテーション、まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、授業を行う。

準備学修

図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

課題・評価方法

平常点（30％）、定期試験（70％）

欠席について

事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総則編）最新版
中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編
教育出版

留意事項

配布したレジメや資料をファイルしておくこと

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET		13851	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事			

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、情報機器や教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外(総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育・人権教育
13. 模擬授業実践と考察(特別の教科・道徳)
14. 模擬授業実践と考察(特別活動)
15. 模擬授業による実践と考察・まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点30％、定期試験70％

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編 「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校で38年教員をする。 (算数を専門的に研究し、神戸市算数研究会部長を務める)			

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。教材研究、模擬授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫や留意点を理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまづきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡めながらプレゼン、討議する。学校現場での45分授業の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

授業計画

1. オリエンテーション ・ 算数科の目標(その趣旨及び要点)
2. 算数科の内容と構成(領域と概観)
3. 授業45分間の構成上の留意点
4. 第1学年の目標及び内容
5. 第2学年の目標及び内容
6. 第3学年の目標及び内容
7. 学習指導案の書き方(1)指導案を学ぶ
8. 学習指導案(2)指導案を書く
9. 第4学年の目標及び内容
10. 第5学年の目標及び内容
11. 第6学年の目標及び内容
12. 低学年 模擬授業とふりかえり
13. 中学年 模擬授業とふりかえり
14. 高学年 模擬授業とふりかえり
15. 算数科内容の取扱いまとめと考査

授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題 レポートの提出、学習指導案の提出、模擬授業を求め、講義の中でフィードバックを行う。

評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省 (H29.6)

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得する。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自立）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領（理科）の教科目標及び学年目標、指導のあり方を把握する。エネルギー、粒子、生命、地球を中心に具体的な内容を取り上げ、指導力、応用力を養う。さらに、情報機器及び教材の効果的な活用を理解した上で、指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成する。

授業計画

1. 理科とは何か、小学校学習指導要領 理科の変遷
2. 小学校学習指導要領 理科の構成
3. 小学校学習指導要領 理科の内容
4. 理科教育の今日的課題
5. 理科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
6. 理科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方
7. 理科の教材研究と授業の構想：評価規準の考え方と実際の評価
8. 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)(3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から)
9. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(風とゴムの力の働き、光と音の性質、電流の働き、身の回りの生物、人の体のつくりと運動)
10. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(磁石の性質、空気と水の性質、太陽と地面の様子、季節と生物)
11. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(物の重さ、金属、水、空気と温度、雨水の行方と地面の様子、天気の様子、月と星)
12. 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成(情報

機器及び教材の活用を含む)(5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から)

13. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(振り子の運動、てこの規則性、植物の発芽、成長、結実、動物の誕生、人の体のつくりと働き)
14. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(電流がつくる磁力、電気の利用、流れる水の働きと土地の変化、植物の養分と水の通り道、生物と環境)
15. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(物の溶け方、燃焼の仕組み、水溶液の性質、天気の変化、土地のつくりと変化、月と太陽)

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法

レポートの提出を求め(全3回)、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 理科編(文部科学省)

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
東内 則子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

- ・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
 - ・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
 - ・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
 - ・内容の組み合わせによる有効な単元活動や指導計画を探る。
 - ・各内容を通して他教科や道徳との関連的な指導方法を理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート
2. 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
3. 生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か
4. 生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい）
5. 生活科の内容（内容構成と階層性）
6. 生活科の内容1 「学校と生活」
7. 内容2 「家庭と生活」内容3「地域と生活」
8. 内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
9. 内容5 「季節の変化と生活」・内容の関連付けの意義を知り年間計画を考える
10. 内容6 「自然や物を使った遊び」身近な物での物作り体験
11. 内容7 「動植物の飼育・栽培」内容8「生活や出来事との交流」
12. 内容9 「自分の成長」生活科の評価方法
13. 学習指導案づくり
内容6 物づくりの場面の展開を考える
14. 模擬授業
15. テスト

授業の方法

テキストによる講義を行うとともに、ワークショップやディスカッションを織りまぜながら理解を深める。

授業の初めは、身近な植物の観察「知っておきたい身近な植物」を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は2点減点し、遅刻は1点減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。特別活動について授業発表・研究発表あり。 特別活動担当指導主事経験あり。			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身につける。
KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
2. 基本的な性格と意義
3. 学級活動の目標と内容
4. 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
5. 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
6. 学級活動の内容の取扱い
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
7. 児童会活動の目標と内容
8. 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
9. クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
10. 学校行事の目標と内容
11. 学校行事の指導計画と内容の取扱い
12. 指導計画の作成に当たったの配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
13. 指導計画の作成に当たったの配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
14. 内容の取扱いについての配慮事項
15. まとめと、定期試験

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。

評価方法：平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

1. 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
2. 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
3. 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
4. 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
5. 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6. 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
7. 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8. 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
9. 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10. 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11. 様々な障害種、重複障害と個別の教育支援
12. 特別支援教育コーディネーター等との連携
13. 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14. 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別の教育支援
15. 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

留意事項

必要な場合授業時に指示する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。
KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

1. 教育課程の基準（改定の経緯・意義と基準となる法制）
2. 学習指導要領の改訂の変遷
3. 小学校教育の基本と教育課程の役割（カリキュラム・マネジメントの充実）
4. 教育課程の編成（求められる資質・能力と共通の事項）
5. 教育課程の実施と学習評価（主体的・対話的で深い学びの実現にむけて）
6. 児童の発達の支援（発達支援と子に応じた指導の充実）
7. 教育課程の改善と学校評価（教育課程におけるPDCA）
8. 道徳教育推進上の配慮事項（豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携）
9. 総合的な学習の時間の目標（目標の構成・趣旨・学習指導のポイント）
10. 各学校において定める目標及び内容（全体計画と年間指導計画）
11. 単元計画と学習指導の在り方「福祉」の学習を通して
12. 総合的な学習の時間の指導「伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」
13. 総合的な学習の時間の指導「環境」
14. 総合的な学習の時間の指導「国際理解」
15. 学習評価の在り方・定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。
評価方法：平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。